

よしきい

2026年 春号



藪の中からホーホケキョ ♪

目次

公園の風景

- ウグイス色ってどんな色? 1
- ヨシ原へGo! 1
- スギナとツクシの関係は 1

ぐるっと山口湾 ⑦ 2

みんなのひろば

- 山口県の素敵な野鳥の魅力に惹かれ . . 2

活動紹介

- 2月の「環サボ」活動 3
- ずっと続けていこう 3
- 年度末を迎えて 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景

= ウグイス色ってどんな色？ =

ウグイスがさえずり始めましたね♪ウグイスの澄んだ美声は日本人の生活や文化に深く根付き親しまれてきましたが、警戒心が強く、藪の中などにいることが多いため、実際はどんな鳥がよく知らない人も多いのではないのでしょうか。梅の木など人目に付くところで花の蜜を吸っているメジロと誤認され、メジロの羽の明るい緑色が「ウグイス色」と呼ばれたりしますが、実際のウグイスの羽は茶色がかった渋い緑色で、食性も花の蜜ではなく虫や草の実を好んで食べます。



ところで、ウグイスの鳴き声には繁殖期のさえずり「ホーホケキョ」や警戒音のような「ピルルルルルケッキョケッキョ…」などありますが、そのほかに、「ケキョケキョ」とか「ホーホケッ」など、へんてこな鳴き方をしているのがいたら、それは人で言うと言言のようなものか、オスの幼鳥が親の鳴き方をまねて一生懸命練習しているところだそうです。

= ヨシ原へGo！ =

2月23日（日）、公園の恒例イベント「ヨシ原探検」が行われました。大人13人と幼児、小学生6人の総勢30人の参加者で、いつもは入れないヨシ原に入りました。



水路の一本橋を落ちないようにソロリソロリと歩くのはスリル満点！ヨシをかき分け奥に進んで行ってカヤネズミの巣を見つけたり、鳥の羽根も拾ってレンジャーに何の鳥のものか聞いたりしました。

水路にはカムルチー（雷魚）やゲンゴロウブナの死骸を見つけて、ヨシ原にはいろいろな生き物が暮らしていることを学び、最後に皆がヨシを取って来て長さ比べをして終わりました。天気も良く、とても楽しいヨシ原探検になりました。



= ツクシとスギナの関係は =



園内西側の樹林帯からヨシ原の水路へ向かう土手は日当たりの良い場所です。3月を迎える頃にはツクシが首をもたげ春の到来を教えてくれます。

春になるとまずツクシが姿を現し、そのツクシが枯れるころ同じ場所にスギナは生えてきます。実はツクシとスギナは同じ地下茎でつながっているのです。ツクシは頭に付いた緑色の胞子を飛ばし繁殖を担います。そのあと生えてきたスギナが光合成を行

って養分の調達をするのです。

ツクシは食用、スギナは生薬としても使われることもありますが、スギナは繁殖力が旺盛で、毎年増え続けて手がつけられなくなってしまい、庭や畑にはありがたくない雑草として嫌われることもあります。



ぐるっと山口湾

7

山口湾を

ラムサール登録へ!



3月、山口湾で冬を過ごした渡り鳥たちが北国に帰る準備をしています。
この冬も絶滅危惧種のクロツラヘラサギ、ズグロカモメをはじめ、40種ものさまざまな海鳥が飛来しました。



ズグロカモメ



クロツラヘラサギ



葦の会のクロツラ調査では
波多瀬で休むクロツラヘラサギを数えます



ダイサギ



オナガガモとトモエガモの群れ



トモエガモ



オナガガモ



干潮時は 350 ha ほどの干潟が現われます

みんなのひろば

山口県の素敵な野鳥の魅力に惹かれ



僕は三重県から山口県に赴任して、もう2年半になります。時間が許す限り、きらら浜自然観察公園に出かけ野鳥観察、仕事で福岡～山口～広島の間移動時にも、何か新しい野鳥との出会いがないか楽しみにして日々過ごしています。公園のボランティアの方から、防府の三田川にオオハクチョウがいると聞き、是非見たいと何度か足を運び、先日ようやく出会えました。両サイドは田んぼで川幅の狭い三田川を、嘴が黄色く先端が黒い、白い大きなオオハクチョウが周りを気にせず優雅に泳いでいました。三重県では見たことがない、渡り鳥のオオハクチョウを見るのは初めてで、しばらく見とれていました。

その時写真を撮られていた近所の野鳥愛好家と思われる方によると、昨年1月15日に初めて三田川に色も違う幼鳥が現れ、しばらく過ごしていたようだがその後旅立ち、それが今年の1月半ばに羽の色も白く体も大きく成長して戻ってきたのでは、とのこと。優雅に泳ぐオオハクチョウを見ているだけで心が癒されます。最高に可愛いです！これからも山口県、そして三重県でも、季節ごとに見られる色々な野鳥観察を楽しみたいと思います。



(T.Nakata)

葦の会会員のご友人からの投稿です



皆さまのご投稿をお待ちしています。ashinokai.kirara@gmail.com までお送りください。

活動紹介

= 2月の「環サポ」活動 =

2月15日(日)は環境サポート、略して「環サポ」チームの月一回の活動日でした。アサギマダラを迎えるための新フジバカマ畑の土づくりも終盤に向かいつつあります。公園内の樹林に蓄えられた腐葉土を集め新規畑へ運ぶこと6回。前回の活動日に敷き詰めた腐葉土の上に更に重ねまし



た。来月の活動日には腐葉土の上に砂を乗せる予定で、畑の脇へトラックを着ける段取りです。アサギマダラが乱舞する光景に思いを馳せがんばる環サポメンバー5名でした。

= ずっと続けていこう =



山口湾のクロツラヘラサギ保全のための活動として2018年に始まった海岸清掃が2月28日(土)13時から行われました。今回は公園や葦の会、子ども連れの一般参加者など20名で、土路石川の河口の干潟のゴミを拾い集めました。新たにたくさんのゴミが流れ着いていましたが、継続は力なり!当初に比べれば量は減ってきていると感じます。クロツラヘラサ

<俳句教室 最多選句>

ギをはじめとする、干潟を利用する生き物のための活動ですが、何より、みんなで拾ってきれいにした干潟を見ると清々した気分になります。皆様もご一緒しませんか?



・寒晴れや湖の底まで透きにける
ミツ子

・青空へいまはつきりと初音かな
勝

1月

2月

= 年度末を迎えて =

諸先輩の方々が立ち上げ、育てて下さった葦の会は、この4月に24期目をスタートします。まさに23期の年度末である今、会発足時の設立趣旨を記させていただきます。

- (1) 会員相互に、自然への関心と理解を深めること。
- (2) 来園者とも自然の素晴らしさを共有し、自然への興味と関心を高めること。
- (3) 公園を中心として、自然環境の保全に対する県民意識を広めること。

私事ですが、代表のバトンを渡す時を迎えております。皆様の暖かなご協力に感謝申し上げます。新代表のもと楽しい会の活動を願って止みません。見守って頂ければ幸いです。

村田 敬子

<編集後記>

3月に入り、ポカポカ陽気の日も増え、心もウキウキしてきますね。そろそろ冬の野鳥たちともお別れです。ちょっと寂しいけど、ウグイスのさえずりに癒されている今日この頃です。

(らんらん)